

新型インフルエンザについて

新型インフルエンザの流行が広まってきたが、一体何が問題なのでしょうか。新型というだけで、大変な病気と思いがちですが本当でしょうか。

症状は季節型と同様に、突然の高熱、咳、咽頭痛、倦怠感に加えて、鼻汁・鼻閉、頭痛等です。ただし、季節性に比べると、下痢や嘔吐などの消化器症状が多いことが指摘されています。重症度に関しては従来のインフルエンザ(季節型)と大きな差は無いと言われています。マスクで逐一死亡が報道されるため、重症度(致死率・死亡率)が高い印象はありますが、どうも季節型と比べて大きな差がないようです。診断は従来の迅速診断キットでも可能ですが、季節型と比べると感度が低く、38℃以上になると6〜8時間経過していないと陽性化しないと言われています。

新型で最も問題になることは、重症度が高いことではなく、誰も

免疫を持っていない(高齢者にあるとの報告も)ということ。このことは、これからの流行の規模が大きくなるのは事実であり、仕方がないことです。極端なことを言えば、いずれほとんどの国民が感染してしまうと考えられています。致死率に差は無くても大勢の人が感染すれば、死者数は増えてしまうこととなります。基礎的な疾患を持つていると重症化しやすいと言われ、慢性呼吸器疾患、慢性心疾患、糖尿病などの代謝性疾患、腎機能障害、ステロイド内服などによる免疫機能不全等がリスクとされています。また、妊婦、乳幼児、高齢者の中にも重症化することがあると言われています。

重症化で問題になるのは肺炎がありますが、小児では脳炎・脳症に注意が必要です。インフルエンザ感染初期(多くは24時間以内)に、異常行動や言動、意識障害、痙攣で発症します。完全には解明されていませんが、短時間に

脳がむくんでしまうことが原因とされています。もちろん、顔色が悪い、呼吸が速い、苦しうにしているなどの肺炎を疑わせる症状にも注意が必要です。しかし、多くのケースでは軽症で、WHOの抗ウイルス薬使用に関する勧告(2009年8月21日)では、健康な5歳以上の小児では、症状の遷延や悪化が無ければ、必ずしも抗インフルエンザ薬の必要が無いと示されています。逆に基礎疾患を有する患者さんや初期から症状が重い場合には検査結果を待たずに治療してもよいとされています。

インフルエンザは予防することが重要であることは誰もが知っていることです。予防の手段としてワクチンがありますが、供給量と時間の問題で、すぐには対応できないのが現状です。従来からの予防法が重要で、手洗い・うがいをしっかりとすることが原則です。その他の予防策としては、咳や発熱などの症状のある人に近づかない、人混みの多い場所に行かない、手指を清潔に保つといった予防策も大切です。最近よく言われる「咳エチケット」を守り、咳やくしゃみ

等の症状のある場合には必ずマスクをつけましょう。

大事なことは新型インフルエンザを理解することで、必要以上の不安を持たないことです。周囲の流行などの情報を入力し、急を要する症状を見極め、重症化が疑われた場合には早めに医療機関を受診することが重要です。予防対策を励行して、何とか新型インフルエンザを乗り切りましょう。(最後に新型インフルエンザに関しては完全に解明されていない部分があることを申し添えておきます)

ナビゲーター

小児科専門医

川村 和久

仙台市在住



医療法人社団かわむらこどもクリニック医院長。日本の小児科サイトを運営する、言わずと知れた小児科専門医。「お母さん達の心配・不安の解消」を理念に、日々の診療にあたった。宮城県小児科医会理事。2001年には医師として大変名誉のある日本小児科学会バネリストとして選ばれた。
AERA(アエラ)臨時増刊号「日本初! かかりつけ医を探すガイド」日本の家庭医 08(7月5日号)の町のお医者さん1435人の中で紹介される。
<http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

★「ディズニーランドに連れて行って下さい」 伶理くん(3歳)